メシアの王国の後の出来事、永遠の秩序（黙20：7～22：5）と結語（黙22：6～21）

■はじめに

熊本集会では、中川先生のメッセージ・シリーズ「黙示録」に基づいて、終末に起きる出来事を時系列で見ています。これまでに、下の3. この後に起きる事、⑥の「再臨とその後の出来事」と⑦の「メシアの王国」までを学びました。本日は、⑧の「メシアの王国の後の出来事」と⑨の「永遠の秩序」、そして1. 黙示録のアウトライン　(5) の結語、です。

■黙示録のアウトラインと概要

1. 黙示録のアウトライン（1：19）
   (1) 序文（1：1～8）
   (2) ヨハネの見た事　＝天におられる主イエス・キリストの姿と啓示（1：9～20）
   (3) 今　あ　る　事　＝七つの教会に宛てた手紙（2章～3章）
   (4) この後に起きる事＝大患難期・メシアの王国・永遠の秩序（4章～22：5）
   (5) 結語（22：6～21）
2. 今ある事＝当時実在した教会の状況→教会時代の七つの流れを預言したもの
   →携挙のときに存在する教会のタイプは⑦に限らず、特に④⑥

	教会名	意味＝特色	時代区分	時期
①	エペソ	好ましい	使徒時代（第2世代）	30～ 100
②	スミルナ	没薬	ローマの迫害の時代	100～ 313
③	ペルガモ	結婚した	国家教会となった時代	313～ 600
④	テアテラ	継続した犠牲	分裂と暗黒の時代	600～1517
⑤	サルデス	逃れる者	宗教改革の時代	1517～1648
⑥	フィラデルフィア	兄弟愛	大宣教運動の時代	1648～1900
⑦	ラオデキア	人々が支配する	背教の時代	1900～現在

3. この後に起きる事

	区分		黙示録の箇所
①	大患難期の前に天で起きる事		4章～5章
②	大患難期【7年間】	前半期	6章～9章
③		中間で起きる事	10章～14章
④		後半期	15章～16章
⑤		二つのバビロン	17章～18章
⑥	再臨とその後の出来事		19章～20：3
⑦	メシアの王国【千年間】		20：4～6
⑧	メシアの王国の後の出来事		20：7～15
⑨	永遠の秩序		21章～22：5

■ この後に起きる事　3－⑧　メシアの王国の後の出来事（黙20：7～15）

1. サタンの反乱（20：7～10）
   (1) 7節　千年王国の最後に、サタンが牢から解き放たれる。
      ①　「牢」とは　20：3「底知れぬ所」、9：1～2「底知れぬ穴、底知れぬ所」（ギアビス）　悪霊が一時的に閉じ込められる所で、ハデス（よみ）の中にある。
      注意：同じくハデスの中にあるが、ギタータラスは、永遠に閉じ込められる所（Ⅱペテロ2：4「暗やみの穴」、ユダ6節「暗やみの下」）

② サタンが解放される目的は？

(2) 8節　サタンは、世界の諸国民を惑わす

① 反乱軍は「地の四方にある諸国の民」から蜂起し、その数は「海辺の砂のよう」、極めて多い。サタンの惑わしに呼応する者は誰か？

➢ イザヤ65：20　→　第二世代以降、100歳以下には不信者がいる

② 諸国民＝異邦人。イスラエルの民（ユダヤ人）は含まれないのか？

➢ エレ31：34　→　イスラエルの民はみな、信者になる。

③ 「ゴグとマゴグ」とは？

➢ ゴグとマゴグは、エゼ38：1～39：16に登場する。この戦いは、大患難期の前に起きる。現在のロシアが該当する。

➢ 共通点は、イスラエルの民とエルサレムへの攻撃。黙20：8では、反乱軍をエゼキエルの預言と重ねて、比ゆ的に「ゴグとマゴグ」と呼んでいる。

(3) 9節　サタンと異邦人（不信者）の軍勢は、聖徒たちの陣営と愛された都を取り囲む。すると、天から火が降って来て、軍勢は焼き尽くされる。

① 聖徒たちの陣営＝イスラエルの民、愛された都＝エルサレム

② 天からの火によって、反乱は、ただちに鎮圧される。

(4) 10節　サタンは、「火と硫黄との池」に投げ込まれ、永遠の苦しみを受ける。

① マタイ25：41　「悪魔とその使いたちに用意された永遠の火」

② 黙19：20　獣（反キリスト）、にせ預言者は、先に、千年王国の始まる前に、「硫黄の燃えている火の池」に投げ込まれている。

③ 悪魔の使いたち、すなわち悪霊たちは、千年王国の間は、2か所に閉じ込められる＝バビロンとエドム（黙18：2、イザ34：9～16）

④ サタンが火の池に投げ込まれる時期について（フルクテンバウム博士のサタン論　P.34）

➢ ロマ16：20　Ⅰコリ6：2～3　信者は、天使（ここでは悪い天使を指す、すなわちサタンと悪霊）を裁く。→　その裁きを受けてから、サタンと悪霊は「火と硫黄との池」に投げ込まれることになる。

➢ その裁きについて、次の11節から15節で説明がされる。サタンと悪霊が火の池に投げ込まれるのは、大きな白い御座の裁きを経てからである。

2. 大きな白い御座の裁き（黙20：11～15）

(1) 11節　大きな白い御座とそこに着座しておられる方。地も天も、なくなる。

① 着座しておられる方＝イエス・キリスト　←　ヨハ5：22

② 地も天も、なくなる　創世記1：1で造られた最初の天と地はなくなる。

(2) 12節　裁き

① 対象者は、あらゆる時代の不信者。信者がこの裁きを受けることはない。

② 数々の書物：各人の行いが記録された書物

③ いのちの書

➢ 人が誕生すると、その名が書き記される

➢ 不信者のままで死ぬと、その書から名が消される（詩139：16、69：28、黙3：5）

④ 裁きは、「いのちの書」からその人の名が消されていることを確認した後、「数々の書物」に記された内容に従って判定される。

➢ その判定に無罪はない。刑の軽重、すなわち火の池での苦しみの程度が決まる。

- ➢ どれだけの啓示が与えられていたか、どのような生活をしてきたか
- ➢ マタ 11：20～24、ルカ 12：47～48、ヨハ 19：11)

⑤ 「いのちの書」に対して、「小羊のいのちの書」は別物。世の初めから信者の名が書き記されている（黙 13：8)。これは、義人の書とも（詩 69：28)

(3) 13節　第二の復活についての説明

① 「海はその中にいる死者を出し」：からだは、どこで、どのような状態で散らばっていても、復活する。

② 「死とハデスも、その中にいる死者を出した」：ここの「死」は、死者の遺体や遺骨を納めた墓を意味する。ハデスは、死者の魂が行く場所。よって、この箇所の意味は、不信者のからだが墓からよみがえり、ハデスにいた魂と結合して、第二の復活となる、ということ。

(4) 14節a　最後に、死とハデスも火の池に投げ込まれる。

① Ⅰコリ 15：26　最後の敵である死が、滅ぼされる

② ハデスは、死者の魂が行く場所、悪霊たちを閉じこめる場所であったが、その役割も終わった。

(5) 14節b～15節　第二の死

① 「いのちの書に名のしるされていない者」＝不信者

② 彼らは火の池に投げ込まれる。第二の死は、神との永遠の分離

■ この後に起きる事　3－⑨　永遠の秩序（黙 21：1～22：5)

1. 新しい天と新しい地（21：1)
2. 新しいエルサレム（21：2)

(1) アブラハムの信仰　ヘブ 11：9～10

(2) 天のエルサレムの住人　ヘブ 12：22～24

① この箇所で例示された6つの住人

- ➢ 無数の御使いたちの大祝会
- ➢ 天に登録されている長子たちの教会
- ➢ 万民の審判者である神＝父なる神
- ➢ 全うされた義人たちの霊＝旧約時代の聖徒たち
- ➢ 新しい契約の仲介者イエス＝子なる神、小羊
- ➢ 注ぎかけの血（アベルの血よりもすぐれたことを語る)

② この箇所に例示されていないが、他の箇所からわかる住人

- ➢ 三位一体の神→聖霊
- ➢ 黙 21：9　直訳「私は見せよう、その花嫁を、小羊の妻」
  - ■ その花嫁＝2節の新しいエルサレム。花嫁のように飾られ整えられて、神のみもとを出て天から下ってくる。
  - ■ 小羊の妻＝教会時代の聖徒たち全体（小羊の花嫁であった教会は、すでに千年王国の前に、婚姻と婚宴を経て、妻となっている)
  - ■ 新しいエルサレムの住民の中心は「小羊の妻」、<u>教会時代の聖徒たち全体</u>である。中でも「長子たちの教会」は、その代表である。よって、新しいエルサレムには「長子たちの教会」だけでなく、教会時代の聖徒たち全体が住む。

3. 第一の宣言（21：3～4)

(1) 神の幕屋が人とともにある＝神の栄光が人とともにある

4. 第二の宣言（21：5～8)

(1) いのちの水の泉　ヨハ4：13～14
(2) 勝利を得る者＝信者、これらのもの＝新しい天と新しい地・新しいエルサレム
5. 聖なる都エルサレムの特徴（21：9～22：5）
(1) 啓示（21：9～10）
(2) 特徴（21：11～22：5）
① 神の栄光（21：11）
② 城壁（12～13）
③ 城壁の土台（14）
④ 広大な面積（15～17）　12000ｽﾀﾃﾞｨｵﾝ×185m＝2,220㎞
⑤ 材質（18～21）
⑥ 不要になったもの（22～23）　神殿、太陽・月
⑦ 聖徒たちだけが入る（24～27）
⑧ いのちの水の川（22：1～2）
⑨ いのちの木（22：2）
⑩ 都の住民（3～4）
⑪ 夜が巡ってこない都（5）

■ 結語（黙22：6～21）
1. 再臨の希望（6～7）
2. ヨハネによる礼拝（8～9）
3. この書の預言を宣告せよとの命令（10～11）
(1) 預言者ダニエルへの命令との対比（ダニ12：4）
4. 報いの確実性（12）
5. 永遠のキリスト（13～16）
(1) 「初めであり、終わりである」（イザヤ44：6）　イエス・キリストの神性宣言
(2) 「明けの明星」
① ヤコブから一つの星が上る（民24：17）。メシアを指す
② 明けの→霊的暗黒時代の終わりが近い
6. 御霊と花嫁（教会）による招き（17）
7. 最後の警告（18～20）
8. 祝祷（21）

■ 補足
1. 死は3つある
(1) 霊的な死（エペ2：1）：これは人が神を認めず、神のことばに従わないために、いのちの源である神から分離した状態。
(2) 肉体の死（第一の死）：これは肉体とたましいとの分離。肉体はちりに帰り（創3：19）、たましいは、ハデスに行く。たましいは不滅。
(3) 第二の死：これは肉体とたましいが再び結合させられ、「大きな白い御座のさばき」の後、火の池に投げ込まれる。永遠に苦しみ、後悔する。神との永遠の分離。
2. 復活も3つある
(1) 霊的な復活＝信者の新生。イエスも十字架上で霊的な死と霊的復活を経る。
(2) 第一の復活＝信者の復活。イエスは、第一の復活の初穂（Ⅰコリ15：20）
(3) 第二の復活＝不信者の復活
3. 変換：信者が栄光のからだを受ける経路は、復活だけでなく、「変換」もある。携挙のときに地上で生きている信者（Ⅰコリ15：51～52）。千年王国時代の信者たちも。